

The page features a decorative design of vertical bars. At the top, three vertical bars of varying heights extend from a grey header bar down into the white main area. In the middle, three vertical bars of equal height extend from the white area down into a grey footer bar. At the bottom, three vertical bars of varying heights extend from the grey footer bar down into the white main area. The bars are positioned to the left of the main text.

2017年9月期第3四半期 決算説明資料

株式会社チェンジ

2017/8/14

CHANGE
PEOPLE, BUSINESS, JAPAN

2017年9月期 第3四半期 決算報告

業績見通し

ハイライト及び今後の方針

2017年9月期 第3四半期サマリー

大幅な
増収増益

NEW-ITトランス
スフォーメーション
ライブラリのさら
なる拡充を推進

第3四半期 合計

対前年同期比

売上高

1,560百万円

約1.50倍

(対前年: +522百万円)

営業利益

322百万円

約2.10倍

(対前年: +169百万円)






- ☑ 東京メトロ向けに**AR（拡張現実）**を活用した**教育用アプリケーション**を提供
- ☑ 「**ICTスキル総合習得プログラム**」の開発に係る請負契約を総務省と契約・業務着手
- ☑ アマゾン・ドット・コム社の**Alexa**に対応した**自社オリジナルSkill**の開発完了・提供開始
- ☑ **AIer**育成を中核に据えた**AIトランスフォーメーション事業**を開始

金額は百万円単位とし端数は切捨表示

2017年9月期第3四半期 損益計算書

☑ 極めて好調に推移し、大幅な増収増益を達成

☑ 第3四半期累計 売上高：1,560百万円 対前年比 約1.50倍（522百万円増）
 営業利益：322百万円 対前年比 約2.10倍（169百万円増）

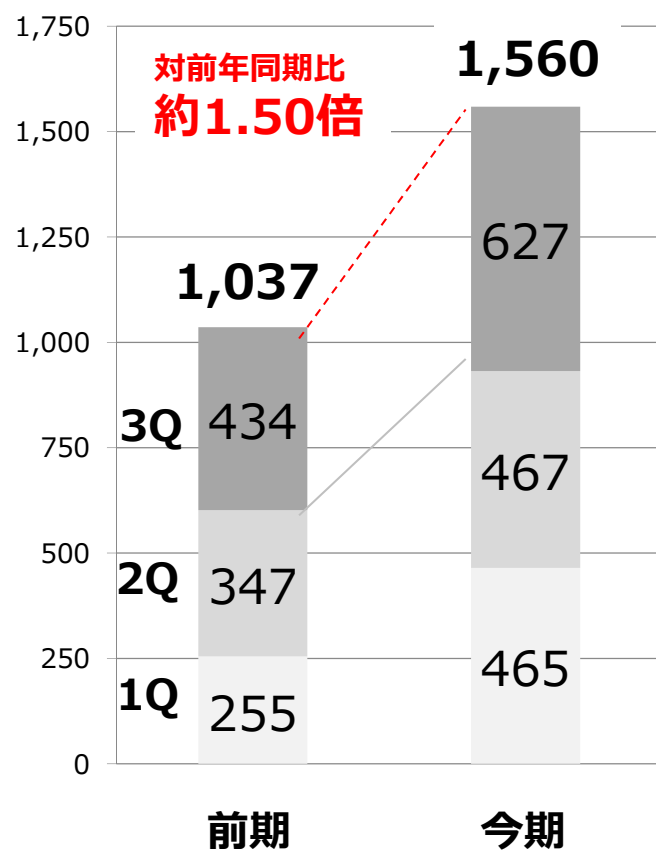
(単位：百万円)	2016年9月期 第3四半期累計		2017年9月期 第3四半期累計			
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減%
売上高	1,037	100.0%	1,560	100.0%	522	+50.4% 
売上原価	598	57.7%	896	57.5%	297	+49.8%
売上総利益	439	42.3%	663	42.5%	224	+51.2% 
販売費及び一般管理費	285	27.5%	340	21.8%	55	+19.5%
営業利益	153	14.8%	322	20.7%	169	+109.9% 
経常利益	144	13.9%	317	20.4%	173	+120.3% 
四半期純利益	93	9.0%	213	13.7%	119	+127.7% 

金額は百万円単位とし端数は切捨表示

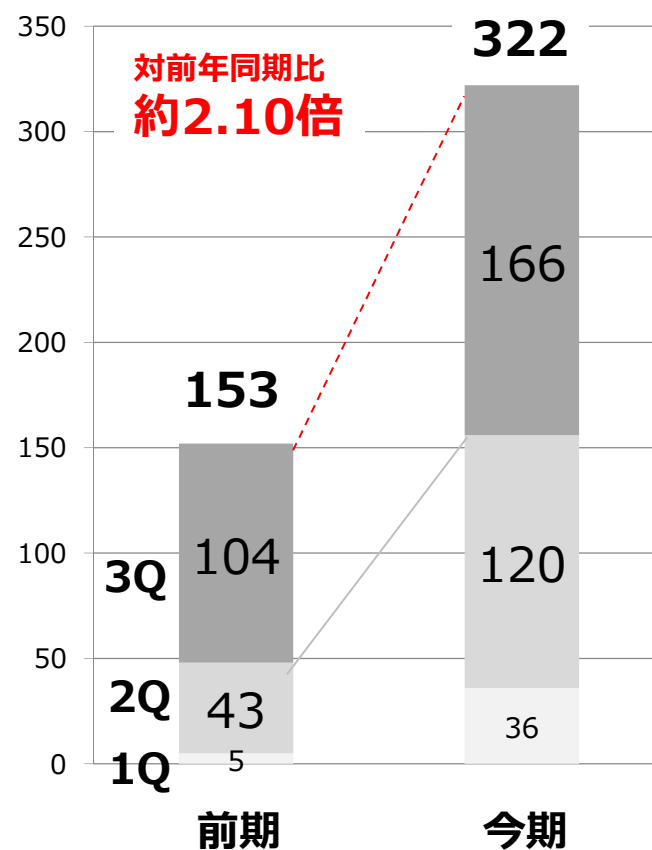
2017年9月期第3四半期 売上高・営業利益

☑ 売上高・営業利益ともに前期を大幅に上回る

売上高（第3四半期）（単位:百万円）



営業利益（第3四半期）（単位:百万円）



金額は百万円単位とし端数は切捨表示

2017年9月期 第3四半期 決算報告

業績見通し

ハイライト及び今後の方針

業績予想の上方修正（2017年8月14日発表）

- ☑ 第3四半期の好調な業績を踏まえ今年度の通期個別業績予想を上方修正
- ☑ 第4四半期は来期以降の**飛躍的な成長**のための投資・仕込みを徹底的に行う

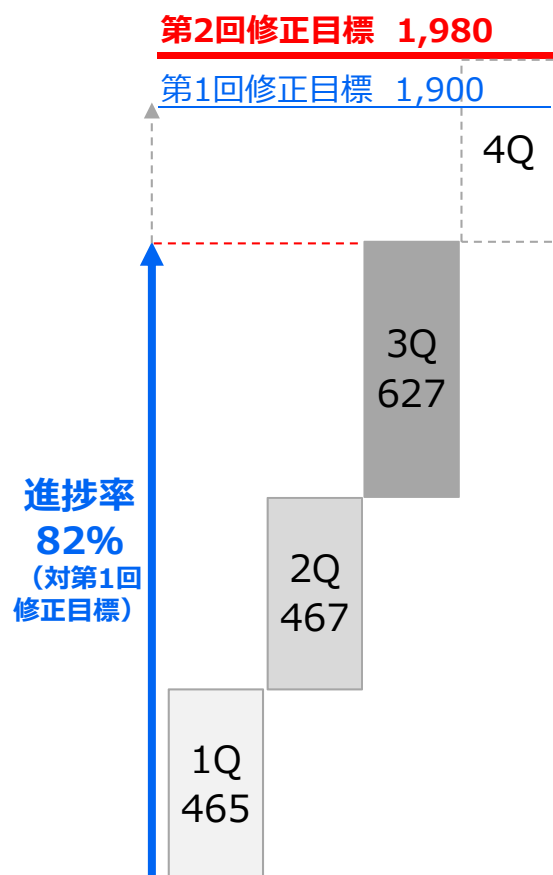
	当初業績目標 (2016年11月14日発表)	第1回修正目標 (2017年4月17日発表)	第2回修正目標 (2017年8月14日発表)	増減額 (第1回と第2回修正の増減)
売上高	1,806	1,900	1,980	+80
営業利益	201	262	331	+69
経常利益	201	256	325	+69
当期純利益	135	171	218	+46

金額は百万円単位とし端数は切捨表示

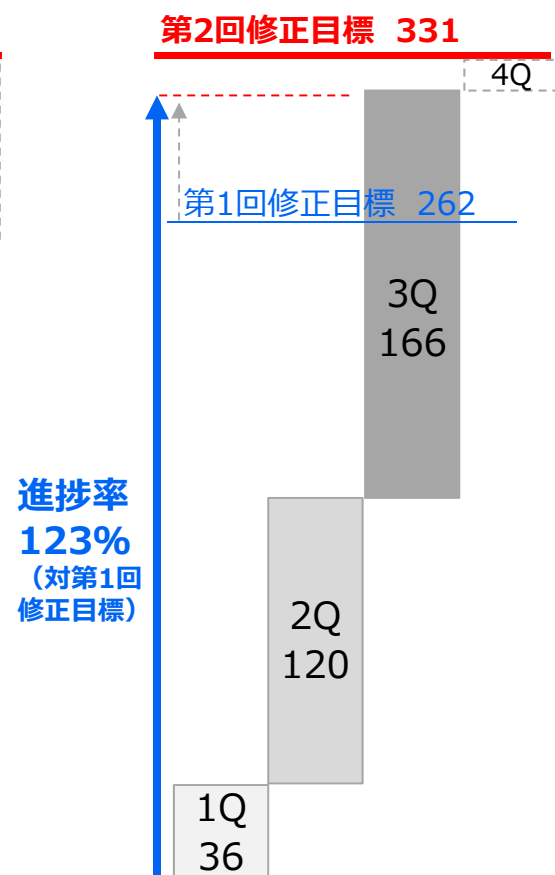
業績予想の上方修正の主たる要因

☑ NEW-ITトランスフォーメーション案件の伸長等が主要因

売上高進捗



営業利益進捗



上方修正の主たる要因

特に以下のサービスの販売による売上の伸長、原価の抑制

- 第四次産業革命人材を中軸としたNEW-IT人材育成に向けたサービス
- モバイルセキュリティプラットフォーム販売
- モバイル関連の既存ライブラリの横展開

+

徹底したコスト管理による内部管理費の抑制

金額は百万円単位とし端数は切捨表示

今後に向けた方針

事業の概況

- 上半期に続き、第3四半期業績も好調に推移
 - ✓ 第1回修正目標に対して、
 - 売上:82%まで進捗
 - 営業利益:123%まで進捗
 - ✓ 当期の上方修正を再度実施
 - 売上: +4%
 - 営業利益: +26%
- 当期の業績目標を確実に実施しつつも、将来の飛躍的な成長に向けた投資を一段と加速させる好機

今後に向けた方針

方針

- ✦ 飛躍的成長に向けた重点領域の商品開発・事業基盤強化に力点
- ✦ 直近の売上・営業利益の成長に対して上記を優先して推進

重点領域

- ✓ 音声認識・AIスピーカー
- ✓ AR（拡張現実）・VR（仮想現実）
- ✓ AI（人工知能）

投資概要

- ✓ 新規技術に挑戦するプロジェクト推進
- ✓ 商品開発・提携先拡充
- ✓ 要員の拡充・拠点拡張

2017年9月期 第3四半期 決算報告

業績見通し

ハイライト及び今後の方針

事業成長に向けた4つの戦略

提携戦略

- 海外発の先進技術・製品の目利き・調達
- 国内でのIT販売・提供網の強化

顧客戦略

- フラグシップユーザーの獲得
- 業界内への横展開

商品戦略

- 先進技術の研究開発
- ユースケース開発・ライブラリ化

M&A戦略

- M&AによるNEW-ITトランスフォーメーション事業の成長

第3四半期のハイライト

ハイライト

東京メトロ向けにAR（拡張現実）を活用した 検査員教育アプリケーションを拡張開発

顧客戦略

商品戦略

- 土木構造物（トンネル等）の検査に用いるiPad専用アプリケーションに、AR（拡張現実）を活用
- 訓練施設の模擬トンネル上に、仮想の損傷を表示させることで、時間の制約に捉われず安全に、かつ実業務に近い環境で訓練を行うことができる環境を提供

「ICTスキル総合習得プログラム」の開発に係る 請負契約を総務省と契約・業務着手

顧客戦略

商品戦略

- 第四次産業革命人材の育成に向け、データサイエンティスト育成のためのデータ収集/蓄積/分析等の教材を開発
- 集合研修用教材およびeラーニング用教材を開発

今後の展望

- 先進的なモバイル×ARのユースケースとして、業界内への横展開
- NEW-IT人材育成におけるAR/VRの活用の推進

- AI、IoT技術の活用に向けた人材育成ノウハウを活用し、NEW-IT人材の育成事業を加速

第3四半期のハイライト

ハイライト

アマゾン・ドット・コム社のAlexaに対応した 自社オリジナルSkillの開発完了・提供開始

商品戦略

- IoT時代の音声インターフェースの標準と予測されるAlexaに対応するオリジナルSkillの開発を完了
- 住宅、家電、メディア、教育、広告、小売、eC等の業界に向けたSkillの展開を開始し、ユーザーからのフィードバックに基づく新機能の開発も並行して推進

今後の展望

- 新機能開発および提供先の業界の拡張
- 音声データの集積・活用のスキーム形成および将来的なビッグデータ活用

AIer育成を中核に据えた AIトランスフォーメーション事業を開始

商品戦略

- AI活用を通じて、業務プロセス/ビジネスモデルに変革を起こす人材・組織の育成を推進
 - AIプログラミングからプロジェクトマネジメント、コミュニケーションまでをカバー
- 画像解析に加え、センサデータ分析も実践
 - Deep Learningの主たる活用先である画像解析に加え、IoT導入により集積されるセンサーデータの分析もカバー

- ビジネスモデルそのものを担うAIを支える内部人財の育成を推進
- 学習プログラム自体のAIによる高度化、オンラインラーニングサービス化

【参考】Alexaに関する状況

Alexaとは

- Amazon.comが開発した、クラウド音声認識インターフェース
- 音声による操作でWebサービスやハードウェアの操作を行うことが可能
- スマホの次の革命となるAIスピーカーの「標準」として最有力候補との評価を得ている

海外マーケットにおける状況

販売台数が
1,000万台を突破

- Alexaを搭載したAIスピーカーであるAmazon Echo（Amazon.comが公式に販売）の販売台数が1,000万台を突破
- 2014年の発表後、順調に売上を伸ばし、特に販売台数の半数が2016年11月以降であるように、この1年間で急速に普及が進んでいる

12,000以上のSkill

- 現時点で12,000を超えるSkillが開発され、オンライン上のマーケットから利用することが可能
- Skill開発のための環境が外部開発者に開放され（2015年～）、飛躍的にSkill数が伸びている

700を超える
家電製品が対応

- 家電見本市“CES2017”において、700を超える製品にAlexaが搭載された
- 多くのメディアから「今年のCESはブースを出展さえしていないAmazonのボイスアシスタントAlexaが圧倒的な存在感を示した」と評される

【参考】Alexaに関する状況

国内マーケットの動き

国内においても複数のAIスピーカー製品が発表され、今後、普及が始まることが予想される

主な動き

- Googleが「Google Home」の日本発売を発表
(2017年5月)
- LINEが、人工知能基盤「Clova」を搭載したAIスピーカー「WAVE」を発表
(2017年6月)
- NTTドコモが子供を持つ共働き世帯向けの家庭用音声対話機器「ペトコ」を発表
(2017年6月)

AIスピーカーの代表的な用途

既存デバイスの代替

- スピーカーの代替。音楽/BGMポータルサービスと連携し、シチュエーションに合わせた音楽を楽しむことができる
- スマートハウスのリモコン。音声を通して家電製品を操作できる

「ながら」ニーズ

- 音声入力により、他のことをしながら（手がふさがっていても）、、、
 - ✓ 情報収集ができる
 - ✓ eCサイトへの発注ができる 等

弊社では、、、

- 他に先駆けてAlexaのオリジナルSkill開発に着手し、日本発売後のロケットスタートを準備中
- Skill提供を通してデータを蓄積し、顧客企業の新たなビジネスモデル創造へ寄与するためのスキームを整備中